

【基本情報】

教科	芸術	学年	3年	教科書	Tutti 音楽Ⅱ 改訂版（教育出版）
科目	音楽Ⅱ	単位数 (年間予定コマ数)	2 (64)	副教材	MUSIC NAVIGATION
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・実技を中心に授業を進めます。 ・内容は、歌唱（独唱・合唱）、器楽演奏（アルトリコーダー・和楽器）、鑑賞（作曲家の生涯と作品）、楽典（楽譜の基礎知識・楽曲の構成） ・定期考査は実施しませんが、授業の中で実技テストと単元内容に応じた小テストを実施します。 ・鑑賞後は、確認テストを実施しますので、ストーリーや時代背景と楽曲の関係も把握しながら鑑賞しましょう。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜や音楽的基礎知識を理解して、より深みのある表現（歌唱・演奏）ができる。 ・鑑賞を通して、音楽を感じる力とその表現力、また、音楽文化についての知識をより深める。 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱では、発声練習を用いて、個々の技術力や感性をより磨き、豊かな声で歌唱できるよう取り組む。 ・表現（歌唱や器楽）分野では、基礎練習から楽曲演奏まで段階的に技術力を磨けるよう取り組む。 ・鑑賞分野では、作曲家の生涯を振り返り、作品と時代背景との結びつきを探求し幅広く音楽文化に触れる。 ・鑑賞教材は、オペラ DVD を使用し、ストーリーを探求する。 ・器楽演奏では、アルトリコーダーを使用しますので準備して下さい。 ・和楽器では、三味線を実施します。（音楽室にあるものを使用します。） ・教科書、ミュージックノート、プリントファイルは、毎時間使いますので忘れないようにしてください。 ・音楽史では、ギリシャ時代から現代までの流れを学習します。 				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書、ミュージックノート、プリントファイル、筆記用具は、毎回必ず使用します。 ・実技教科ですので、得意、不得意に限らず、積極的に授業に参加すること。 ・鑑賞の時は、心を落ち着け、じっくりと音楽を体の中に取り組み、音楽の素晴らしさを体感する。 ・鑑賞後は、内容の確認テストがあるので、鑑賞時は、メモを取りながら鑑賞して下さい。 				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト前には、プリントやミュージックノートを復習する必要があるでしょう。（20分位） 				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽演奏では、アルトリコーダーを実施しますので、持っていない人は準備しておいてください。 				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	毎時間、積極的に取り組み、得意、不得意に限らず、どの分野においても偏らず意欲的に取り組む。	30%	ノート作成の状況、発言状況を相対的に判断し、評価します。
B. 思考・判断・表現	表現（歌唱や器楽）分野で、基礎技術力を身につけ、楽曲を豊かに表現する。 楽譜を正確に読み取り、更に自分なりの表現を探求する。	30%	実技テストを通して、基礎力、表現力を評価します。
C. 資料活用能力	鑑賞を通して、作品を探求し、作曲家の生まれ育った国の特色や時代背景を考察し、歴史と関連付ける。 作品に込められた作曲家の意図を探求する。	10%	提出プリントの作成や小テストの状況を評価します。
D. 知識・理解	様々な作曲家について触れ、その生涯や時代背景、作品と関連づけ考察している。 楽典分野で、基礎的な音楽知識を身につけている。	30%	小テストを通して、理解状況を判断し評価します。
E.		%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標	
			A	B	C	D	E		
楽典 (基礎本的音楽知識)	10	音楽を形成している様々な要素について学習し、楽譜や音符に関して理解し、表現(歌唱・演奏)できるよう取り組む。 □音符 □音楽用語 など □小テスト		○		○		授業内で実施する小テストで理解度、到達度を確認します。表現(歌唱・演奏)するにあたって必要な事柄ですので、しっかりと確認することが大切です。	
表現(独唱)	15	基本的な発声(腹式呼吸・ベルカント唱法)を身につけ、日本語や外国語の発音の響きを大切にしながら、また、音楽的背景や文化的背景を理解しながら、より難しい楽曲にチャレンジします。 □日本歌曲 □イタリア歌曲 □ドイツ歌曲 など □実技テスト			○		○	曲想と歌詞の内容・楽曲の時代背景と関連付けて歌唱できるようにする。 その国特有の発音を正しく発音し、イントネーションを大切にしながら歌唱する。 □実技テストの実施により、技術力の向上や表現力の豊かさを確認します。	
表現(合唱)	15	発声練習・パート練習・全体練習の流れで練習し、ハーモニー感を味わいながら合唱を完成していく。(個々の努力が不可欠ですので、積極的に取り組むように) □2重唱 □合唱 など	○		○			パートの音楽的役割を理解し、ハーモニーや音楽表現を通して、合唱の素晴らしさを体感する。 1年間の集大成として、合唱発表会を実施し、成果の発表をする。	
器楽(アルトリコーダー)	15	リコーダーの音色や奏法の特徴を生かし、豊かな表現を工夫しながら演奏する。 □音階(アルペジオ) □練習曲(様々な調での演奏) □楽曲 など □実技テスト			○		○	様々な表現形態により、器楽の特徴を生かしながらイメージを持って演奏する。 □実技テストの実施により、技術力の向上や表現力の豊かさを確認します。	
鑑賞 (作曲家と歌劇の成り立ち)	9	楽曲の文化的背景や、作曲家や演奏者の表現についてその特徴や技術力を理解しながら鑑賞します。 □オペラ □確認テスト					○	○	様々な演奏形態を鑑賞し、音楽と時代背景、表現法について考察する。 □確認テスト

【基本情報】

教科	芸術	学年	3年	教科書	Tutti 音楽Ⅲ 改訂版（教育出版）
科目	音楽Ⅲ	単位数 (年間予定コマ数)	2 (64)	副教材	MUSIC NAVIGATION
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・実技を中心に授業を進めます。 ・内容は、歌唱（独唱・合唱）、器楽演奏（アルトリコーダー・和楽器）、鑑賞（作曲家の生涯と作品）、楽典（楽譜の基礎知識・楽曲の構成） ・定期考査は実施しませんが、授業の中で実技テストと単元内容に応じた小テストを実施します。 ・鑑賞後は、確認テストを実施しますので、ストーリーや時代背景と楽曲の関係も把握しながら鑑賞しましょう。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜や音楽的基礎知識を理解して、より深みのある表現（歌唱・演奏）ができる。 ・鑑賞を通して、音楽を感じる力とその表現力、また、音楽文化についての知識をより深める。 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱では、発声練習を用いて、個々の技術力や感性をより磨き、豊かな声で歌唱できるよう取り組む。 ・表現（歌唱や器楽）分野では、基礎練習から楽曲演奏まで段階的に技術力を磨けるよう取り組む。 ・鑑賞分野では、作曲家の生涯を振り返り、作品と時代背景との結びつきを探求し幅広く音楽文化に触れる。 ・鑑賞教材は、オペラ DVD を使用し、ストーリーを探求する。 ・器楽演奏では、アルトリコーダーを使用しますので準備して下さい。 ・和楽器では、三味線を実施します。（音楽室にあるものを使用します。） ・教科書、ミュージックノート、プリントファイルは、毎時間使いますので忘れないようにしてください。 ・音楽史では、ギリシャ時代から現代までの流れを学習します。 				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書、ミュージックノート、プリントファイル、筆記用具は、毎回必ず使用します。 ・実技教科ですので、得意、不得意に限らず、積極的に授業に参加すること。 ・鑑賞の時は、心を落ち着け、じっくりと音楽を体の中に取り組み、音楽の素晴らしさを体感する。 ・鑑賞後は、内容の確認テストがあるので、鑑賞時は、メモを取りながら鑑賞して下さい。 				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト前には、プリントやミュージックノートを復習する必要があるでしょう。（20分位） 				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽演奏では、アルトリコーダーを実施しますので、持っていない人は準備しておいてください。 				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	毎時間、積極的に取り組み、得意、不得意に限らず、どの分野においても偏らず意欲的に取り組む。	30%	ノート作成の状況、発言状況を相対的に判断し、評価します。
B. 思考・判断・表現	表現（歌唱や器楽）分野で、基礎技術力を身につけ、楽曲を豊かに表現する。 楽譜を正確に読み取り、更に自分なりの表現を探求する。	30%	実技テストを通して、基礎力、表現力を評価します。
C. 資料活用能力	鑑賞を通して、作品を探求し、作曲家の生まれ育った国の特色や時代背景を考察し、歴史と関連付ける。 作品に込められた作曲家の意図を探求する。	10%	提出プリントの作成や小テストの状況を評価します。
D. 知識・理解	様々な作曲家について触れ、その生涯や時代背景、作品と関連づけ考察している。 楽典分野で、基礎的な音楽知識を身につけている。	30%	小テストを通して、理解状況を判断し評価します。
E.		%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
楽典 (基礎本的音楽知識)	14	音楽を形成している様々な要素について学習し、楽譜や音符に関して理解し、表現(歌唱・演奏)できるよう取り組む。 □音符 □音楽用語 など □小テスト		○		○		授業内で実施する小テストで理解度、到達度を確認します。表現(歌唱・演奏)するにあたって必要な事柄ですので、しっかりと確認することが大切です。
表現(独唱)	16	基本的な発声(腹式呼吸・ベルカント唱法)を身につけ、日本語や外国語の発音の響きを大切にしながら、また、音楽的背景や文化的背景を理解しながら、より難しい楽曲にチャレンジします。 □日本歌曲 □イタリア歌曲 □ドイツ歌曲 など □実技テスト			○		○	曲想と歌詞の内容・楽曲の時代背景と関連付けて歌唱できるようにする。 その国特有の発音を正しく発音し、イントネーションを大切にしながら歌唱する。 □実技テストの実施により、技術力の向上や表現力の豊かさを確認します。
器楽(アルトリコーダー)	14	リコーダーの音色や奏法の特徴を生かし、豊かな表現を工夫しながら演奏する。 □音階(アルペジオ) □練習曲(様々な調での演奏) □楽曲 など □実技テスト			○		○	様々な表現形態により、器楽の特徴を生かしながらイメージを持って演奏する。 □実技テストの実施により、技術力の向上や表現力の豊かさを確認します。
鑑賞 (作曲家と歌劇の成り立ち)	20	楽曲の文化的背景や、作曲家や演奏者の表現についてその特徴や技術力を理解しながら鑑賞します。 □オペラ □確認テスト				○	○	様々な演奏形態を鑑賞し、音楽と時代背景、表現法について考察する。 □確認テスト

【基本情報】

教科	芸術	学年	3年	教科書	書Ⅱ（光村図書）
科目	書道Ⅱ	単位数 (年間予定コマ数)	2 (64)	副教材	墨心（教育出版）
科目概要	生徒の能力・適性・興味・関心等に応じた活動を展開し、個性豊かな書の能力を高めます。 書の文化や伝統についての理解を深めます。				
到達目標	個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばします。				
授業の進め方	ほぼ毎時間、書道実技が中心です。 プリントや鑑賞、書道理論なども適宜織り交ぜます。				
留意事項	「継続は力なり」・・・ただ提出された作品のみでなく、追求する過程も評価します。 楽しく伸びやかな表現を目指します。 書道用具は、評価の公平を期すために、全員同じ用具を使用します。 書道用具は、書道室内に保管します。 移動・準備は、休み時間中に完了させてください。				
家庭学習					
備考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 書への関心・意欲・態度	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化の関心を持って、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	10%	授業に対する姿勢や積極性を評価します。
B. 書表現の構想と工夫	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	20%	作品の変容の過程を評価します。 討論をする姿勢や、考えたことを伝えようとする積極性を評価します。
C. 創造的な書表現の技能	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身につけている。	60%	提出された作品を評価します。
D. 鑑賞の能力	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書の良さや美しさを創造的に味わっている。	10%	書の美しさを知識として理解しているか評価します。
E.		%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
オリエンテーション	1	シラバスの説明 各自の目標設定	○					授業内容を知る。
漢字仮名交じりの書 1 漢字の書 1	8	小楷 実用書の習得	○		○	○		小楷による表現に意欲的に取り組もうとする。。
漢字仮名交じりの書 2	16	原爆に関する詩を書で表現する。 自分の選んだ言葉を書く。 作品制作	○	○	○	○		戦争の悲惨さを書で表現する。 心から書きたい言葉を選択できるようにする。 言葉の持つイメージを書で表現する。
漢字の書 2	10	篆書 篆刻 遊印制作	○	○	○	○		自分の作品に合った、完成度の高い印を仕上げられるようにする。
漢字の書 3	10	臨書一 張遷碑 作品制作	○	○	○	○		隸書の特徴を理解し、表現しようとする。
漢字の書 4	11	臨書一 十七帖 作品制作	○	○	○	○		草書の特徴を理解し、表現しようとする。
仮名の書 1	8	臨書一 高野切第二種 作品制作	○	○	○	○		仮名の特徴を理解し、表現しようとする。

【基本情報】

教科	芸術	学年	3年	教科書	書道Ⅲ（東京書籍）
科目	書道Ⅲ	単位数 (年間予定コマ数)	2 (64)	副教材	墨心
科目概要	書道Ⅱを踏まえ、さらに生徒の能力・適性・関心等に応じた活動を展開し、個性豊かな書の能力を高めます。 書の文化や伝統についての理解を深めます。				
到達目標	個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばします。				
授業の進め方	ほぼ毎時間、書道実技が中心です。 プリントや鑑賞、書道理論なども適宜織り交ぜます。				
留意事項	「継続は力なり」・・・ただ提出された作品のみでなく、追求する過程も評価します。 楽しく伸びやかな表現を目指します。 書道用具は、評価の公平を期すために、全員同じ物を使用します。 書道用具は、書道室内に保管します。 移動・準備は、休み時間中に完了させてください。				
家庭学習					
備考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 書への関心・意欲・態度	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化の関心を持って、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	10%	授業に対する姿勢や積極性を評価します。
B. 書表現の構想と工夫	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	20%	作品の変容の過程を評価します。 討論をする姿勢や、考えたことを伝えようとする積極性を評価します。
C. 創造的な書表現の技能	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身につけている。	60%	提出された作品を評価します。
D. 鑑賞の能力	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書の良さや美しさを創造的に味わっている。	10%	書の美しさを知識として理解しているか評価します。
E.		%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
オリエンテーション	1	シラバスの説明 各自の目標設定	○					半年間の授業内容を知る。
漢字仮名交じりの書 1 漢字の書 1	2 7	座右の銘を書く 掛け軸の制作	○	○	○	○		深みのある言葉を選択できるようにする。 表装作業を丁寧に行おうと努力する。
漢字仮名交じりの書 2	1 1	ガラス絵 作品制作	○	○	○	○		心から書きたい言葉を得ることができるようにする。 鑑賞に堪える言葉を選択できるようにする。 言葉と空間の関わりを理解することができるようにする。
漢字の書 2	2 5	臨書（始平公造像記） 作品制作（個人から共同作業へ） 合作	○	○	○	○		造像記の特徴を理解し、表現しようとする。 統一感のある合作を仲間と協力して完成させようとする。

【基本情報】

教科	芸術	学年	3年	教科書	高校生の美術2（日本文教出版）
科目	美術Ⅱ	単位数 (年間予定コマ数)	2 (64)	副教材	
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・感性を高め、創造活動を通して美術を愛好する心情を育てる。 ・造形的要素を深く追求し、個性を生かして創造的な表現を追求させる。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的要素を深く追求し、主題に合った表現方法を工夫して表現できるようになる。 ・主題について自ら考え、アイデアを練り、創造的に表現することができるようになる。 ・多種多様な美術作品に触れ、その良さを感じ取り、自己の表現に生かすことができる。 				
授業の進め方	<p>ほぼ毎時間、実技が中心です。</p> <p>プリントやDVD・スライド等による鑑賞をおこないます。</p>				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実技が中心なので、作品は出来る限り完成させて提出するようにしてください。 ・毎時間の取り組み姿勢を重視します。受け身にならず、集中して積極的に制作に取り組むようにしてください。 ・教科書、鉛筆（B、2B程度のもの）、消し具は毎回忘れずに用意してください。 ・絵の具、スケッチブックは美術室内に保管します。 				
家庭学習	<p>基本的に必要ありませんが、作業が遅れて時間内に完成できない場合は、家庭での制作が必要となる場合もあります。</p>				
備考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現技法や美術文化に関心を持ち、主体的に個性豊かな表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとしているか。	10%	授業に取り組む姿勢や積極性を評価します。
B. 発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて、自然、自己、社会などを深く見つめ、主題を生成し、創造的な表現の構想を練っているか。	30%	スケッチブック等のアイデアスケッチやメモ。作品の制作過程から評価します。
C. 創造的な技能	創造的な美術の表現をするために必要な技能をも身に付け、主題にあった表現方法を工夫し創造的に表しているか。	50%	提出された作品をもとに評価します。
D. 鑑賞の能力	美術作品などの表現の工夫や心豊かな生き方の創造に関わる美術の働き、美術文化などの理解を深め、そのよさや美しさを多様な視点から創造的に味わおうとしているか。	10%	鑑賞ノートなどの提出物で評価します。

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
静物デッサン	24	<ul style="list-style-type: none"> ・観察による表現 ・質感描写 ・量と空間の把握 ・明暗の階調 	○		○		<ul style="list-style-type: none"> ・対象の部分を細かく観察することで美しい形や明暗を発見することができる。 ・量と空間のバランスを考えて構成することができる。 ・鉛筆の特徴を生かし美しい階調やタッチを工夫することが出来る。
鑑賞 現代のデザイン	6	<ul style="list-style-type: none"> ・現代デザインの始まり ・生活と芸術の関わり 	○			○	<ul style="list-style-type: none"> ・現代のデザインのもとになった運動について理解し、日常生活の中でのデザインとの関わりについて理解を深め親しむことができる。
イラストレーション	34	<ul style="list-style-type: none"> ・伝える内容を考え、資料を集める ・構想を練る ・意図に応じた画材の選択 ・個性的な表現方法の工夫 ・意図に応じた配色 	○	○			<ul style="list-style-type: none"> ・伝える内容を考え、アイデアスケッチで構想を練ることができる。 ・意図に応じて描画素材の選択し、技法を工夫して表現することができる。 ・色彩の表現効果を考え、配色を工夫することができる。
	64						

【基本情報】

教科	芸術	学年	3年	教科書	高校生の美術3（日本文教出版）
科目	美術Ⅲ	単位数 (年間予定コマ数)	2 (64)	副教材	
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> 感性を高め、創造活動を通して美術を愛好する心情を育てる。 主題について深く追求し、構想を練り、個性を生かして創造的な表現を追求させる。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 造形的要素を深く追求し、主題に合った表現方法を工夫して表現できるようになる。 主題について自ら考え、アイデアを練り、創造的に表現することができるようになる。 多種多様な美術作品に触れ、その良さを感じ取り、自己の表現に生かすことができる。 				
授業の進め方	<p>ほぼ毎時間、実技が中心です。</p> <p>プリントやDVD・スライド等による鑑賞をおこないます。</p>				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 実技が中心なので、作品は出来る限り完成させて提出するようにしてください。 毎時間の取り組み姿勢を重視します。受け身にならず、集中して積極的に制作に取り組むようにしてください。 教科書、鉛筆（B、2B程度のもの）、消し具は毎回忘れずに用意してください。 絵の具、スケッチブックは美術室内に保管します。 				
家庭学習	<p>基本的に必要ありませんが、作業が遅れて時間内に完成できない場合は、家庭での制作が必要となる場合もあります。</p>				
備考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現技法や美術文化に関心を持ち、主体的に個性豊かな表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとしているか。	10%	授業に取り組む姿勢や積極性を評価します。
B. 発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて、自然、自己、社会などを深く見つめ、主題を生成し、創造的な表現の構想を練っているか。	30%	スケッチブック等のアイデアスケッチやメモ。作品の制作過程から評価します。
C. 創造的な技能	創造的な美術の表現をするために必要な技能をも身に付け、主題にあった表現方法を工夫し創造的に表しているか。	50%	提出された作品をもとに評価します。
D. 鑑賞の能力	美術作品などの表現の工夫や心豊かな生き方の創造に関わる美術の働き、美術文化などの理解を深め、そのよさや美しさを多様な視点から創造的に味わおうとしているか。	10%	鑑賞ノートなどの提出物で評価します。

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
アクリル画（室内風景）	3 2	<ul style="list-style-type: none"> ・室内から自由にモチーフを選び、光や空間を意識して構成させる。 ・色彩の表現効果 ・アクリル絵の具の表現技法 	○	○			<ul style="list-style-type: none"> ・教室内から自由にモチーフを選び、表現意図を持って構成することができる。 ・意図や表現効果に応じて下地の工夫や個性的な色遣いを追求することができる。 ・アクリル絵の具の特性を生かした表現技法を工夫して表現することができる。
卒業制作（ボックスアート）	3 2	<ul style="list-style-type: none"> ・自分をテーマに高校生活を振り返り卒業の記念として残る作品を作る。 ・様々な素材を自由に選択し、組み合わせを考え、ボックスアートとして箱の中に構成させる。 	○	○			<ul style="list-style-type: none"> ・主題について深く考え、自由な視点で構想を練ることができる。 ・自分の身の回りから素材を収集することができる。 ・素材の特徴を生かした表現や構成の工夫ができる。
	6 4						

【基本情報】

教科	外国語(英語)	学年	3年	教科書	My Way Communication III New Edition (三省堂)
科目	コミュニケーション英語Ⅲ	単位数 (年間予定コマ数)	4 (128)	副教材	・ Starting Line はじめての大学入学共通テスト (いっずな書店) ・ 共通テスト10分リスニングプレノート (数研出版) ・ 大学入学共通テスト英語(リーディング)対策 Reach 40 (美誠社) ・ 新ユメタン①大学合格必須レベル
科目概要	Communication English I、II及び、英語表現Iで学んだことを基礎にして、聞く・話す・読む・書くといった言語活動を授業内で実施し、定着を図る。科学分野において有用な英語の語法や知識を学び、英語でのプレゼンテーション能力を育成する。				
到達目標	①教科書、単語集に出てくる単語を身につける。 ②教科書に出てくる文法項目を使用して、自分の考えやその場で創作した内容を英語で表現できる。 ③教科書の英文について、Questionsに答えながら概要を理解することができる。 ④教科書の英文の内容・テーマについて自分の意見を英語で表現することができる。 ⑤教科書以外の英文について、品詞に着目しながら、英文の構造を理解できる。				
授業の進め方	上記の到達目標①～⑤に沿う形で授業を進めていきます。 ・ 授業の冒頭に単語集を使って、英単語・フレーズの音読練習を行います(単語テストや英文法テストを週1回実施します)。…① ・ ハンドアウトを配布し、教科書の英文を要点をとらえながら学習…②③④⑤				
留意事項	・ 単語集(新ユメタン①大学合格必須レベル)、教科書、ライトハウス英和辞典、予習ノート、副教材等を机上に準備する。 ・ 配布されるハンドアウトの保存。 ・ ペアワークの相手は大切なパートナーです。協力して取り組むことが大切です。				
家庭学習	必ず家庭学習の時間をとり、英語の家庭学習を習慣化してください。 ・ 予習/宿題 ~ 教科書本文・新出単語予習、予習ノート作成等、指示された内容を確実に家庭学習の中で行っていく。 ・ 単語学習/復習 ~ ユメタンで語彙の学習に毎日最低30分+授業の復習に最低30分=毎日最低60分間を確保する。 (★復習は上記の到達目標①～⑤の内容をその日の授業で実施した内容に合わせて行う) ・ 副教材/予習～副教材は支持された範囲を予習して、授業後は復習を欠かさないようにする。				
備考	・ 高校3年間の英語の学力を完成させるつもりで取り組んでください。 ・ 英語検定試験は2級、準1級を目標とします。				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ペアワーク・グループワーク等の活動に積極的に取り組んでいるか。	10%	授業時の活動状況
B. 外国語表現の能力	教科書の文法項目を使用した英文の作成を適切に行うことができるか。	30%	ワークブック提出 定期考査
C. 外国語理解の能力	教科書・単語集の英単語を身につけて、教科書本文、及び補助読解テキストの英文の概要を理解できるか。	40%	小テスト(単語・文法)、ワークブック提出 定期考査(Q&A/内容把握)
D. 言語や文化についての知識・理解	教科書本文で取り上げられテーマに関わる内容・背景知識を理解し意見や感想を表現できるか。	20%	ワークブック提出 定期考査

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
Reading Skill 1 Greetings in the World Lesson 1 Narrow Boats in Britain	1 1	<ことば> 主語と動詞 世界のいろいろなあいさつ 助動詞+受け身 / 比較級・最上級 / 関係代名詞 what		○		○	・予習・復習の習慣化に努める。 ・世界のいろいろな言葉を理解する。 ・ペアワーク等積極的に授業に参加する。 ・英文の概要を理解する。 ・文法事項を理解し、英作文等アウトプットに努める。
Reading Skill 2 The Toughest Creatures Lesson 2 A Mayor of Machu Picchu Village	1 1	<生物> フレーズリーディング 世界最強の生物、クマムシ 受け身の分詞構文 / 関係副詞の非制限用法		○		○	・予習・復習の習慣化に努める。 ・クマムシについて理解する。 ・ペアワーク等積極的に授業に参加する。 ・英文の概要を理解する。 ・文法事項を理解し、英作文等アウトプットに努める。
Reading Skill 3 A Digital Detox Lesson 3 iPS Cells	1 1	<情報社会> 代名詞 デジタルデトックスのすすめ it is ~ that ... / 助動詞+受け身			○	○	・予習・復習の習慣化に努める。 ・デジタルデトックスについて理解する。 ・ペアワーク等積極的に授業に参加する。 ・英文の概要を理解する。 ・文法事項を理解し、英作文等アウトプットに努める。
<前期中間考査> 前期中間考査まで3 4コマ	1						
Reading Skill 4 A Paper Architect: Shigeru Ban Lesson 4 Roman Baths	1 1	<芸術> 未知語の推測 紙の建築家、坂茂の活動。 seem to ~ / so ... that ~ / 部分否定				○	・予習・復習の習慣化に努める。 ・坂茂の活動についての背景知識を理解する。 ・ペアワーク等積極的に授業に参加する。 ・英文の概要を理解する。 ・文法事項を理解し、英作文等アウトプットに努める。
Reading Skill 5 Laughter Therapists Lesson 5 Artificial Intelligence	1 1	<健康> パラグラフ構成 患者を支える笑いのプロたち 現在完了の受け身 / no matter how ~		○		○	・予習・復習の習慣化に努める。 ・ラフター・セラピストについて理解する。 ・ペアワーク等積極的に授業に参加する。 ・英文の概要を理解する。 ・文法事項を理解し、英作文等アウトプットに努める。
Reading Skill 6 Wild Raccoon Dogs in Tokyo Lesson 6 Digital Books vs. Printed Books	1 1	<動物> ディスコースマーカー：列挙・例示 東京都心に住むタヌキ 関係代名詞の非制限用法 / how to ~		○		○	・予習・復習の習慣化に努める。 ・東京都心のタヌキについて理解する。 ・ペアワーク等積極的に授業に参加する。 ・英文の概要を理解する。 ・文法事項を理解し、英作文等アウトプットに努める。
<前期期末考査> 前期期末考査まで3 4コマ	1						
Reading Skill 7 The High Line Lesson 7 Buckwheat Around the World	1 1	<都市環境> ディスコースマーカー：時間的順序 NYのユニークな公園 比較・倍数表現 / 助動詞+受け身	○	○		○	・予習・復習の習慣化に努める。 ・NYのユニークな公園について理解する。 ・ペアワーク等積極的に授業に参加する。 ・英文の概要を理解する。 ・文法事項を理解し、英作文等アウトプットに努める。
Reading Skill 8 Shortened Words in Texting Lesson 8 A Message from Small Creatures	1 1	<ことば> ディスコースマーカー：比較・対象 携帯電話メールでの省略語 関係代名詞の非制限用法 / 助動詞+進行形	○	○		○	・予習・復習の習慣化に努める。 ・携帯電話メールの省略語を理解する。 ・ペアワーク等積極的に授業に参加する。 ・英文の概要を理解する。 ・文法事項を理解し、英作文等アウトプットに努める。
Reading Skill 9 Neighbors' Day Lesson 9 Aung San Suu Kyi	1 1	<地域社会> ディスコースマーカー：原因・結果 「隣人の日」で地域交流 現在完了の受け身 / 仮定法過去完了 / 過去完了進行形	○	○		○	・予習・復習の習慣化に努める。 ・「隣人の日」について理解を深める。 ・ペアワーク等積極的に授業に参加する。 ・英文の概要を理解する。 ・文法事項を理解し、英作文等アウトプットに努める。
Reading Skill 10 Thirty-Six Views of the Eiffel Tower Lesson 10 The Wonders of Memory	1 1	<芸術> スキミング パリの『エッフェル塔三十六景』 倒置 / 過去完了	○			○	・予習・復習の習慣化に努める。 ・パリのエッフェル塔について理解を深める。 ・ペアワーク等積極的に授業に参加する。 ・英文の概要を理解する。 ・文法事項を理解し、英作文等アウトプットに努める。
<後期中間考査> 後期中間考査まで4 5コマ	1						
Reading Skill 11 Join the ABC Tennis Club! Lesson 11 A Moment Makes a Great Difference	1 5	<地域での活動> スキミング テニススクールの広告 関係副詞 / it is ~ that ... / 部分否定	○	○		○	・予習・復習の習慣化に努める。 ・広告英語理解する。 ・ペアワーク等積極的に授業に参加する。 ・英文の概要を理解する。 ・文法事項を理解し、英作文等アウトプットに努める。
年間予定授業コマ数	1 2 8						

【基本情報】

教科	外国語	学年	3年	教科書	なし
科目	応用英語	単位数 (年間予定コマ数)	2 (64)	副教材	ACTIVE Writing (啓林館) 読んで聴いて速読力アップ エル・アール5 (いいずな書店) 英文法・語法 エンゲージ (いいずな書店)
科目概要	ライティング活動を通じて、英語による自己表現能力を養う。				
到達目標	基礎的な表現から発展的なものまで英語で自由に表現する力を身につけることを目標とする。 また、情報収集(速読/リスニング)のスピードの向上を目指す。				
授業の進め方	重要文法項目に沿った問題演習(ライティング活動)のテキストを中心に進めていく。また授業の冒頭で、速読・リスニング演習をテキストを使用して行う。必要に応じて小テスト(確認テスト)を実施する。				
留意事項	辞書、ノートを用意し、予習、復習をしっかりと行うこと。				
家庭学習	重要な英文は声に出して何度も読み、さらにその文を暗記して書けるようにしておくこと。				
備考					

【評価の方法】

観点	ポイント	割合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	授業内の言語活動への参加	10%	個人(ペア)の積極的な取り組み
B. 表現の能力	自分の考えを口頭、文章でまとめて発表	10%	相手に理解してもらえるための表現上の工夫
C. 理解の能力	まとまった英文内容を大まかに把握	10%	リスニング演習問題、内容確認テスト
D. 知識・理解	英文を通して学んだことの背景知識の理解	70%	筆記テスト

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
1. オリエンテーション	1							
2. 時の表し方	4	動詞の時制	○			○		「～する」「～している」「～した」「～していた」の表し方
3. 助動詞①	4	can, will, have to, had better		○		○		「許可」「意志」「義務」「命令」等の表現を身につける。
4. 助動詞②	4	助動詞 + have + 過去分詞				○	○	過去のことについての推量、後悔等の表し方を身につける。
5. 受動態①	4	進行形・完了形の受動態	○			○		やや複雑な受動態の表現に慣れていく。
6. 受動態②	4	群動詞、知覚動詞の受動態		○		○		群動詞や原形不定詞の受動態を理解する。
7 名詞を説明する①	4	前置、後置修飾				○	○	不定詞、分詞による名詞の修飾について理解する。
8 名詞を説明する②	5	関係代名詞・関係副詞	○			○		関係詞が名詞を修飾する構造について学習する。
9 動詞を説明する①	5	不定詞（副詞用法）		○		○		目的、結果等を表現する不定詞の用法を理解する。
10 動詞を説明する②	5	副詞節				○	○	時、理由、譲歩を表す副詞節の働きを学習する。
11 動詞を説明する③	6	仮定法				○		事実と違う表現方法について理解する。
12 比較の表現	6	原級・比較級・最上級	○	○		○		比較の基本表現を身につける。
13 否定の表現	6	全否定・部分否定・準否定				○	○	英語の否定表現について慣れていく。
14 時間の表現	6	「～までに」「～ぶりに」等の表現	○			○		英語特有の「時」を表す表現を理解する。
15 数量の表現	6	倍数表現 more, less の用法		○		○		さまざまな「数」「量」を表す表現に慣れていく。
16 接続詞の表現 重要な表現	8	条件。理由、結果、程度、目的 付帯状況、強調構文、倒置		○		○		やや複雑な接続詞の用法、付帯状況を表す表現、 強調構文の構造等について理解する。

【基本情報】

教科	外国語(英語)	学年	3年	教科書	
科目	SS 英語Ⅲ	単位数 (年間予定コマ数)	5 (176)	副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ My Way Communication Ⅲ New Edition (三省堂) ・ Starting Line はじめての大学入学共通テスト (いづな書店) ・ 共通テスト10分リスニングプレノート (数研出版) ・ 大学入学共通テスト英語(リーディング)対策 Reach 40 (美誠社) ・ 新ユメタン①大学合格必須レベル ・ ACTIVE Writing (啓林館) ・ 読んで聴いて速読力アップ エル・アール5 (いづな書店) ・ 英文法・語法 エンゲージ (いづな書店)
科目概要	Communication English I、II及び、英語表現Iで学んだことを基礎にして、聞く・話す・読む・書くといった言語活動を授業内で実施し、定着を図る。科学分野において有用な英語の語法や知識を学び、英語でのプレゼンテーション能力を育成する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ①教科書、単語集に出てくる単語を身につける。 ②教科書に出てくる文法項目を使用して、自分の考えやその場で創作した内容を英語で表現できる。 ③教科書の英文について、Questionsに答えながら概要を理解することができる。 ④教科書の英文の内容・テーマについて自分の意見を英語で表現することができる。 ⑤教科書以外の英文について、品詞に着目しながら、英文の構造を理解できる。 				
授業の進め方	<p>上記の到達目標①～⑤に沿う形で授業を進めていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の冒頭に単語集を使って、英単語・フレーズの音読練習を行います(単語テストや英文法テストを週1回実施します)。…① ・ ハンドアウトを配布し、教科書の英文を要点をとらえながら学習…②③④⑤ 				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単語集(新ユメタン①大学合格必須レベル)、教科書、ライトハウス英和辞典、予習ノート、副教材等を机の上に準備する。 ・ 配布されるハンドアウトの保存。 ・ ペアワークの相手は大切なパートナーです。協力して取り組むことが大切です。 				
家庭学習	<p>必ず家庭学習の時間をとり、英語の家庭学習を習慣化してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予習/宿題 ~ 教科書本文・新出単語予習、予習ノート作成等、指示された内容を確実に家庭学習の中で行っていく。 ・ 単語学習/復習 ~ ユメタンで語彙の学習に毎日最低30分+授業の復習に最低30分=毎日最低60分間を確保する。 (★復習は上記の到達目標①～⑤の内容をその日の授業で実施した内容に合わせて行う) ・ 副教材/予習~副教材は支持された範囲を予習して、授業後は復習を欠かさないようにする。 				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校3年間の英語の学力を完成させるつもりで取り組んでください。 ・ 英語検定試験は2級、準1級を目標とします。 				

【評価の方法】

観点	ポイント	割合	評価項目
A. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ペアワーク・グループワーク等の活動に積極的に取り組んでいるか。	10%	授業時の活動状況
B. 外国語表現の能力	教科書の文法項目を使用した英文の作成を適切に行うことができるか。	30%	ワークブック提出 定期考査
C. 外国語理解の能力	教科書・単語集の英単語を身につけて、教科書本文、及び補助読解テキストの英文の概要を理解できるか。	40%	小テスト(単語・文法)、ワークブック提出 定期考査(Q&A/内容把握)
D. 言語や文化についての知識・理解	教科書本文で取り上げられテーマに関わる内容・背景知識を理解し意見や感想を表現できるか。	20%	ワークブック提出 定期考査

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
Reading Skill 1 Greetings in the World 時の表し方	16	<ことば> 主語と動詞 世界のいろいろなあいさつ 動詞の時制				○ ○ ○ ○	・予習・復習の習慣化に努める。 ・世界のいろいろな言葉を理解する。 ・ペアワーク等積極的に授業に参加する。 ・英文の概要を理解する。 ・文法事項を理解し、英作文等アウトプットに努める。
Reading Skill 2 The Toughest Creatures 助動詞①②	16	<生物> フレーズリーディング 世界最強の生物、クマムシ can, will, have to, had better 助動詞 + have + 過去分詞				○ ○ ○ ○	・予習・復習の習慣化に努める。 ・クマムシについて理解する。 ・ペアワーク等積極的に授業に参加する。 ・英文の概要を理解する。 ・文法事項を理解し、英作文等アウトプットに努める。
Reading Skill 3 A Digital Detox 受動態①②	16	<情報社会> 代名詞 デジタルデトックスのすすめ 進行形・完了形の受動態 群動詞、知覚動詞の受動態				○ ○ ○ ○	・予習・復習の習慣化に努める。 ・デジタルデトックスについて理解する。 ・ペアワーク等積極的に授業に参加する。 ・英文の概要を理解する。 ・文法事項を理解し、英作文等アウトプットに努める。
<前期中間考査> 前期中間考査まで49コマ	1						
Reading Skill 4 A Paper Architect: Shigeru Ban 名詞を説明する①②	15	<芸術> 未知語の推測 紙の建築家、坂茂の活動。 前置、後置修飾 関係代名詞・関係副詞				○ ○ ○ ○	・予習・復習の習慣化に努める。 ・坂茂の活動についての背景知識を理解する。 ・ペアワーク等積極的に授業に参加する。 ・英文の概要を理解する。 ・文法事項を理解し、英作文等アウトプットに努める。
Reading Skill 5 Laughter Therapists 動詞を説明する①②③	16	<健康> パラグラフ構成 患者を支える笑いのプロたち 不定詞（副詞用法） 副詞節 仮定法				○ ○ ○ ○	・予習・復習の習慣化に努める。 ・ラフター・セラピストについて理解する。 ・ペアワーク等積極的に授業に参加する。 ・英文の概要を理解する。 ・文法事項を理解し、英作文等アウトプットに努める。
Reading Skill 6 Wild Raccoon Dogs in Tokyo 比較の表現	16	<動物> ディスコースマーカー：列挙・例示 東京都心に住むタヌキ 原級・比較級・最上級				○ ○ ○ ○	・予習・復習の習慣化に努める。 ・東京都心のタヌキについて理解する。 ・ペアワーク等積極的に授業に参加する。 ・英文の概要を理解する。 ・文法事項を理解し、英作文等アウトプットに努める。
<前期期末考査> 前期期末考査まで48コマ	1						
Reading Skill 7 The High Line 否定の表現	15	<都市環境> ディスコースマーカー：時間的順序 NYのユニークな公園 全否定・部分否定・準否定				○ ○ ○ ○	・予習・復習の習慣化に努める。 ・NYのユニークな公園について理解する。 ・ペアワーク等積極的に授業に参加する。 ・英文の概要を理解する。 ・文法事項を理解し、英作文等アウトプットに努める。
Reading Skill 8 Shortened Words in Texting 時間の表現	16	<ことば> ディスコースマーカー：比較・対象 携帯電話メールでの省略語 「～までに」「～ぶりに」等の表現				○ ○ ○ ○	・予習・復習の習慣化に努める。 ・携帯電話メールの省略語を理解する。 ・ペアワーク等積極的に授業に参加する。 ・英文の概要を理解する。 ・文法事項を理解し、英作文等アウトプットに努める。
Reading Skill 9 Neighbors' Day 数量の表現	16	<地域社会> ディスコースマーカー：原因・結果 「隣人の日」で地域交流 倍数表現 more, less の用法				○ ○ ○ ○	・予習・復習の習慣化に努める。 ・「隣人の日」について理解を深める。 ・ペアワーク等積極的に授業に参加する。 ・英文の概要を理解する。 ・文法事項を理解し、英作文等アウトプットに努める。
Reading Skill 10 Thirty-Six Views of the Eiffel Tower 接続詞の表現	16	<芸術> スキミング パリの『エッフェル塔三十六景』 条件。理由、結果、程度、目的				○ ○ ○ ○	・予習・復習の習慣化に努める。 ・パリのエッフェル塔について理解を深める。 ・ペアワーク等積極的に授業に参加する。 ・英文の概要を理解する。 ・文法事項を理解し、英作文等アウトプットに努める。
<後期中間考査> 後期中間考査まで64コマ	1						
Reading Skill 11 Join the ABC Tennis Club! 重要な表現	15	<地域での活動> スキミング テニススクールの広告 付帯状況、強調構文、倒置				○ ○ ○ ○	・予習・復習の習慣化に努める。 ・広告英語理解する。 ・ペアワーク等積極的に授業に参加する。 ・英文の概要を理解する。 ・文法事項を理解し、英作文等アウトプットに努める。
年間予定授業コマ数	176						

【基本情報】

教科	家庭	学年	3年	教科書	フードデザイン新訂版（実教出版）
科目	フードデザイン	単位数 (年間予定コマ数)	2 (64)	副教材	オールガイド食品成分表2018
科目概要	<p>栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得し、食生活を総合的にデザインするとともに食育の推進に寄与する能力と態度を身につける。</p> <p>栄養や食品についての知識を献立作成や調理に役立たせる。また、テーブルコーディネートは、サービスの基礎、楽しい食卓づくり、食事空間のデザインなどの学習をし、食の文化的な意義を学ぶとともにもてなしの心を身につけていく。食生活を栄養面に加え、文化的な意義や精神的な満足と合わせて学習し、作るところから食べるところまでを総合的にとらえる。</p>				
到達目標	<p>①栄養や食品の知識を身につけ、献立作成や調理に役立たせることができる。</p> <p>②テーブルコーディネートでは、食の文化的な意義を学び、もてなしの心を身につける。</p> <p>③食材を適切に選択し、作るところから食べるところまで総合的にとらえ計画・実践できる。</p> <p>④健康の保持増進と健全な食生活を実践するために食育の意義を踏まえ、習得した知識や技術を家庭や地域で積極的に活用し食育の推進に寄与する能力と態度を身につける。</p>				
授業の進め方	<p>授業形態は一斉とグループ学習。</p> <p>座学は被服教室、調理実習は調理教室に移動。</p>				
留意事項	<p>教科書・ノート・A4版ファイル、食品成分表を準備する。</p> <p>調理実習時はエプロン、三角巾、ハンカチ、ティッシュ、実習記録プリント、ペンのみ持参する。</p> <p>食が、安全・健康という物理的栄養であるとともに、精神的栄養であることも理解し、他者への心配りを忘れずマナーを身につけて下さい。</p> <p>準備から片付けまで能率的に作業する力と調理技術の向上を目指し、自分や家族の食生活をコーディネートする実践力向上に心がけて下さい。</p>				
家庭学習	<p>自分の食生活を生涯にわたってコーディネートする力をつけるとともに食育の推進に寄与する力をつけるためにも、日々の生活の中で積極的に食と関わっていきましょう。また、食糧自給率、生活習慣病、資源環境の視点から食生活を見つめるためにも新聞に目を通す習慣をつけてください。毎回の授業を大切に行えば、考査前の家庭学習で十分です。</p>				
備考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	食の生理的役割とともに社会的役割に関心を持ち、作ることから食べることまでろまで総合的にとらえて計画する意欲と実践的な態度を身につけている。	20%	課題学習の提出物、提出状況、実習に臨む態度
B. 思考・判断	自分の食生活や、食環境が大きく変化している現状に課題を見つけ、思考を深める。また考えをまとめて判断できる。	20%	定期考査、課題学習の提出物
C. 技能・表現	調理、テーブルコーディネートなどに関する技術を習得することができる。また、自分を取り巻く現状から見つけた課題を的確に表現することができる。	30%	調理実習、実技試験、課題学習の提出物
D. 知識・理解	食事の意義と役割について理解するとともに、豊かな食事を構成する要素として栄養、食品、料理様式と献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を習得することができる。	30%	定期考査
E.		%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
第1章 食生活と健康 第1節 食事の意義と役割 第2節 食をとりまく現状 第3節 食品の特徴・表示・安全 第4節 食品の衛生と安全	13	<ul style="list-style-type: none"> なぜ食べるのか 日本の食生活は豊か? 栄養摂取の現状 生活習慣病と欠食 ライフスタイルの変化 食糧自給率 食品の安全性と環境の変化 	○	○				<p>【関心・意欲・態度】自分自身の食生活や日本の食生活の現状に関心を持ち、改善しようとする意欲がある。</p> <p>【思考・判断】自分自身の食生活や、食環境が大きく変化している現状に課題を見つけ、思考を深めることができる。</p> <p>【技能・表現】自分自身の食生活や日本の食生活の現状から見つけた課題について考えをまとめることができる。</p> <p>【知識・理解】食事は、栄養を供給し、生命の維持や健康の保持増進を図ると同時に、精神的な役割や文化的な役割を果たしていることが理解できる。日本の食生活の現状についての問題点が理解できる。</p>
第2章 栄養素のはたらきと食事計画 第1節 からだのしくみと食べ物 第2～6節 栄養素の役割 第9節 食事摂取基準と食事計画 第10節 ライフステージと栄養計画	6	<ul style="list-style-type: none"> 炭水化物 脂質 たんぱく質 ビタミン ミネラル 日本人の食事摂取基準 日本型食生活のすすめ 		○	○			<p>【関心・意欲・態度】炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質などの種類とはたらき、栄養素の消化のしくみに関心を持っている。ライフステージごとの栄養の特徴を知り、各ライフステージに応じた食生活に関心を持っている。</p> <p>【思考・判断】からだの中でそれぞれの栄養素がどのようなはたらきをしているのかを考え、各ライフステージに応じた食生活について判断することができる。</p> <p>【技能・表現】食生活の現状とも関わらせながら、「日本人の食事摂取基準」や「食品群別摂取量のめやす」など活用し、ライフステージに応じた食事計画にいかすことができる。</p> <p>【知識・理解】炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質などの種類とはたらきについての知識を習得することができる。</p> <p>エネルギーや各栄養素の食事摂取基準について理解できる。乳幼児期から高齢期までの各ライフステージごとの栄養の特徴、食生活上の留意事項について理解できる。</p>
前期期末考査	1			○		○		
第4章 調理の基本 第1節 調理とおいしさ 第2節 調理操作 第3節 調味操作 第6章 フードデザイン実習 第1節 献立作成	28	<ul style="list-style-type: none"> 春の和風献立（たけのこ飯、若たけ汁、鶏肉のくわ焼き） 洋風献立（マカロニグラタン） デザート（パウンドケーキ） きゅうりの半月切り実技試験（ポテトサラダ・マヨネーズ・とりときゅうりの和え物） 牛乳を使用した創作料理に挑戦 洋風献立（ホイル焼き、かき玉汁） 弁当献立 デザート（アップルパイ、スイートポテト） 和風献立（はなずし、はまぐりずし、かぼちゃのそぼろあんかけ） パーティー料理 	○		○			<p>【関心・意欲・態度】調理の目的について、安全性、栄養、嗜好、心身の健康などの面から関心を持ち、学ぼうとする意欲がある。食事のテーマにふさわしい献立や食卓の整え方、周囲の環境づくりを行おうとする。</p> <p>【思考・判断】食物のおいしさは、味・香・色・テクスチャー・温度などに関わっており、調味、加熱やその他の調理操作が料理のできあがりを与える影響について思考を深めることができる。</p> <p>具体的な食事テーマを設定し、その目的に応じた献立を考えることができる。</p> <p>【技能・表現】日常食、行事食、供応食などの調理に必要な調理技術の基礎を身につけることができる。食事のテーマに応じた献立作成・食品材料の選択と調理、テーブルコーディネートなど、一連の流れを計画し実践できる。</p> <p>【知識・理解】日常食、行事食、供応食などの調理に必要な基礎知識を習得することができる。主な加熱操作と非加熱操作について、食品の調理性や栄養的特徴などかかわらせて理解できる。具体的な食事テーマの設定、目的に応じた献立作成、献立に適した食品の選択、食品の調理生性を踏まえた適切な調理について、理解できる。</p>
第5章 料理様式とテーブルコーディネート 1節 料理様式と献立 2節 テーブルコーディネート	3	<ul style="list-style-type: none"> 日本料理 西洋料理 中国料理 テーブルコーディネートの意義 テーブルコーディネートの要素 テーブルコーディネート実習 		○	○			<p>【関心・意欲・態度】日本料理、西洋料理、中国料理など代表的な料理様式について、それぞれの特徴に関心を持とうとしている。季節や行事、食事の目的などに応じて食卓を演出しようとする意欲・関心が感じられる。</p> <p>【思考・判断】食器・盛りつけ・テーブルクロス・照明などについて、目的に応じた適切な選択ができる。</p> <p>【技能・表現】様式別の食卓構成や食卓作法、供応に伴うマナーを身につけることができる。</p> <p>食器・盛りつけ・テーブルクロス・照明などについて適切な取り扱いができる。目的に応じたテーブルコーディネートができる。</p> <p>【知識・理解】日本料理、西洋料理、中国料理など代表的な料理様式について、それぞれの特徴や献立構成を理解できる。食事を心豊かにおいしく食べるためには、季節や行事、食事の目的などに応じて食卓を演出する必要があることを理解できる。</p>
後期中間考査	1			○		○		
家庭学習期間	12							
年間総予定授業コマ数	64							

【基本情報】

教科	情報	学年	普通科 3年 選択	教科書	なし
科目	情報メディアの編集と表現	単位数 (年間予定コマ数)	2 (64)	副教材	なし
科目概要	コンピュータを活用し、いろいろな作品を制作する。				
到達目標	1. 文字・画像・映像・音声などの特色や活用法を学ぶ。 2. コミュニケーションやプレゼンテーションの基礎的・基本的な知識と技術を身につける。				
授業の進め方	すべて実習で授業を進めます。授業の最初には入力練習を行い、コンピュータ入力に慣れることを目指します。実習ではワープロソフト、表計算ソフト、音楽編集ソフト、ビデオ編集ソフトを扱います。ワープロソフトは実際の使用を想定して学習します。表計算ソフトも実際の使用に近い形で実習をします。音楽ソフトはビデオ編集にむけ音楽を一定の時間に編集します。ビデオ編集ソフトは学校紹介のビデオを写真と音楽を使って作成します。				
留意事項	①学習中は私語を慎み、作業に取り組むこと。 ②保存に失敗した場合は必ず申し出ること ③学習中は遠慮無く質問をすること。 ④パソコンのトラブル等何かあれば連絡してください。				
家庭学習	・アプリケーションソフトを使ってやってみたいことが具体的にある方が技術の向上は早いものです。こんなものを作りたいと普段からいろんなものに目を向けてみましょう。 ・テレビやインターネットのCMを制作サイドの目線で見してみるなどして、作成してみたいものを想像してしてみるのもいい勉強になると思います。				
備考	下記の4観点を100点の評価点で換算し、評価をつけます。 おおよそ評価点により次のように評価をします。 ～50点「1」 50～60「2」 60～75「3」 75～90「4」 90～「5」				

【評価の方法】

観点	ポイント	割合	評価の観点
A. 関心・意欲・態度	基本的に授業に臨む態度(服装や整理整頓を含む)等で評価します。	20%	諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けているか。
B. 思考・判断・表現	実習で作成したデータ、提出物等で評価します。	30%	諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けているか。
C. 技能	実習での普段の取り組みを含めて、作成したデータ等で評価します。	30%	基礎的・基本的な技術を身に付け、諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用できるか。
D. 知識・理解	基本的に実技試験で評価します。	20%	基礎的・基本的な知識を身に付け、現代社会における情報及び情報産業の意義や役割を理解しているか。
E.		%	

【年間計画】

単元	配当時間	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
表現メディアの種類と特性	16	表現メディアの種類や特性及びデジタル化に関する基礎的な知識を学びます。	○	○	○	○	学習した内容を使い実技考査の内容を作成することができたか。	
コンピュータグラフィックスの制作	16	コンピュータグラフィックスの編集や表現に関する基礎的な知識と技術を学びます。	○	○	○	○		
音・音楽の編集と表現	16	音及び音楽の編集に関する基礎的な知識と技術を学びます。	○	○	○	○	作品を期日までに作成する中で、左の学習内容を押さえることができたか。	
映像の編集と表現	16	映像の編集や表現に関する基礎的な知識と技術を学びます。	○	○	○	○		
年間総予定授業コマ数	64							

※このシラバスは、あくまで予定を示したもので、状況により時間配分や内容などを変更することがある。

【基本情報】

教科	総合	学年	3年	教科書	
科目	看護教養（数学）	単位数 (年間予定コマ数)	1 (48)	副教材	チェックノート 数学I+A
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次に学習した数学I・Aについて、基礎的な内容の演習をする。 ・演習を通し、基礎的な内容にとどまらず、発展的な内容にもとりくむ。 ・全体の問題演習が完了後、発展的な内容の定着に努める。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的内容を徹底的に復習して習得する。 ・発展的な内容に対応できる力を養う。 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・まず問題演習を用いて問題演習・解説をしながら数学I・Aの基本問題の復習をおよび記述試験の解答の仕方などを学習する。 ・上記の問題集が終了後、看護学校入試問題を用いて、発展的内容の問題演習を行う。 				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・問題集・ノートなどを忘れずに、必要に応じて1年次の教科書を準備する。 ・指示された問題を早く解き終わった場合には、自主的に問題集などに取り組む。 				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として授業で解く問題は予習して、授業ではその確認ができるようにする。 ・授業があった日は、取り組んだ問題を再度解いてみる必要がある。 ・1年次に購入した問題集なども用いて適宜演習を行う。 ・たくさん問題集を買うのではなく、同じものを何度も解くことが大切。 				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	・今まで学習した数学I Aに関心をもつと共に、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	10%	1 定期考査・単元テストの得点 2 ノート・課題提出とその仕上げ具合 3 授業態度（関心・意欲） それらを総合的に評価する。
B. 数学的な見方考え方	・事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、今まで学習した数学I Aにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	30%	
C. 数学的な技能	・今まで学習した数学I Aにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	30%	
D. 知識・理解	・今まで学習した数学I Aにおける基本的な概念、原理、法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。	30%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
<数学 I > 数と式 集合と命題 2次関数 図形と計量 データの分析	16	<ul style="list-style-type: none"> ・整式の計算（展開・因数分解・有理化等） ・方程式（絶対値を含む） ・集合と命題 ・命題と条件 ・2次関数のグラフ ・グラフと方程式および不等式の関係 ・最大値と最小値 ・三角比の基本 ・正弦定理・余弦定理 ・三角形や四角形への応用 ・代表値と箱ひげ図・分散と標準偏差 ・相関係数 			○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次で学習した内容を確認しつつ、基礎的な内容の定着を図り、発展的な内容を考察する。
<数学 A > 場合の数と確率 図形の性質 整数の性質	11	<ul style="list-style-type: none"> ・順列，組合せ，二項定理 ・確率，期待値 ・三角形の性質・円の性質 ・空間図形 ・約数と倍数 ・ユークリッドの互除法 ・不定方程式 			○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・同上
<発展的な内容 > 数学 I・A	21	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学校入試問題を用いた発展的な内容の演習 	○		○		<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な内容の定着の元に発展的な内容の定着を図る。

【基本情報】

教科	総合	学年	3年	教科書	なし
科目	看護教養（英語）	単位数 (年間予定コマ数)	1 (48)	副教材	アクセル 英語総合問題演習 3rd edition (桐原書店)
科目概要	これまで学んできたことを基にして、読解力養成を主とした英語の運用力の向上を目指していく。				
到達目標	様々なジャンルの内容の文章を読みながら読解力をつけていくと同時に、内容に関して各自の感想、意見を英語で簡単にまとめることができる。				
授業の進め方	長文読解、文法語法、英作文、リスニング等を中心に進め、必要に応じて小テスト（確認テスト）を実施する。				
留意事項	辞書、ノートを用意し、予習、復習をしっかりと行うこと。				
家庭学習	授業で指示した重要な英文を暗記し、ノートにまとめておく。				
備考	・この授業は週1. 5コマ実施する（年間授業数48コマ）。また数学分野と併せて2単位の履修である。				

【評価の方法】

観点	ポイント	割合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	授業内の言語活動への参加	10%	個人（ペア）の積極的な取り組み
B. 表現の能力	自分の考えを口頭、文章でまとめて発表	10%	相手に理解してもらえらるための表現上の工夫
C. 理解の能力	まとまった英文内容を大まかに把握	20%	内容確認テスト
D. 知識・理解	英文を通して学んだことの背景知識の理解	60%	筆記テスト

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
1. オリエンテーション	1						
1 トイレ掃除で幸せになろう	3	時制・完了形①	○			○	文脈から語句の内容を読み取る
2 自分のボトルを持ち歩こう	3	時制・完了形②			○	○	ストーリーの展開を読み取る
3. 学校は何月に始まる	3	助動詞	○			○	情報を読み取りそれをまとめる
4. 竹はどの様な植物	3	態		○		○	文脈から内容を読み取る
5. 人形を通じた日米交流	3	準動詞①		○	○	○	指示語の内容を読み取る
6 オラウータンとコンピュータ	3	準動詞②		○	○		アウトラインを把握する
7 子どもと大人の学習の仕方	3	準動詞③		○	○		段落の構成を理解する
8 人は何によって味を感じるか	3	比較①	○			○	文脈から主人公の心情を理解する
9 世界各地で明かりが消える日	3	比較②		○		○	各段落の趣旨をまとめる
10 ローラーステートの起源	3	関係詞①			○	○	主題を読み取る
11 アメリア・エアハートの挑戦	3	関係詞②	○			○	文脈を理解しまとめる
12 ショッピングと音楽の関係	3	関係詞③		○		○	語句を別の表現に言い換える
13 変化するロボットの役割	3	仮定法①		○	○		指示語の内容を読み取る
14 世界の識字率	3	仮定法②		○	○		筆者の主張を読み取る
15 まとめ	2	接続詞					

45 (+3<考査>)

【基本情報】

教科	スーパーサイエンス	学年	3年	教科書	なし
科目	スーパーサイエンス(SS) 研究Ⅲ	単位数 (年間予定コマ数)	1 (32)	副教材	なし
科目概要	① 2年次で行った『課題研究』を英訳し、英語でプレゼンテーションを行う。 ② 研究内容に対して、日本語だけでなく英語を用いて質疑応答や議論を行う。				
到達目標	① 英語でプレゼンテーションを行い、質疑応答・議論を行う力を身につける。 ② 研究に対する議論を通して「課題研究」の内容を検証し深める。				
授業の進め方	・グループごとに課題研究を英訳し、ポスターおよびプレゼンテーションを作成する。 ・英語による質疑応答や即興プレゼンテーションのトレーニングを行い、ポスターセッションや口頭発表で実践する。				
留意事項	・グループ内での活動を重視し、お互いに協力して活動する。 ・グループにかかわらず、積極的に意見を交わしたり議論をする。				
家庭学習	・英訳作業は各自家庭学習で行い、授業時間の中で対話のトレーニングや発表の準備を行う。				
備考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	「課題研究の英訳作業」や「英語プレゼンテーション」にかかわる活動に積極的かつ意欲的に取り組んでいるか。	25%	「課題研究基礎実験」では活動ごとのレポートによる評価 「ライフサイエンス探究」においては作成した資料の評価、発表の評価、確認テストによる評価。
B. 思考・判断・表現	「課題研究の英訳作業」や「英語プレゼンテーション」にかかわる活動において、論理的に思考ができ、さらに適切に表現ができているか。	25%	
C. 技能（資料活用能力）	「課題研究の英訳作業」や「英語プレゼンテーション」にかかわる活動において、技能の習得及び資料の活用が適切になされているか。	25%	
D. 知識・理解	「課題研究の英訳作業」や「英語プレゼンテーション」にかかわる活動に科学的知識等の理解がなされているか。	25%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
課題研究英訳作業	15	課題研究の英訳 英語ポスター作成 英語プレゼンテーション作成	○	○	○	○	課題研究の英訳作業を計画的に行い、研究内容について理解を深める。
ポスターセッション	3	ポスターセッション (2-6)	○	○	○	○	ポスターセッションを通して英語の Q&A を体験する。
英語プレゼンテーション講習	5	英語プレゼンテーションの基礎 即興プレゼンテーションのトレーニング	○	○	○	○	英語プレゼンテーションの基礎を学び、即興プレゼンテーションのトレーニングを行う。
課題研究英語発表会	9	課題研究英語発表会準備 リハーサル	○	○	○	○	研究内容について深く理解し、英語でわかりやすく示すための準備を行う。